

初期キャリア形成期における薬学出身者の就業意識

Work attitudes of pharmacy graduates at early career stage

○中込 啓一¹、林 行和²

○Keiichi Nakagomi¹, Yukikazu Hayashi²

1. 武蔵野大学教養教育リサーチセンター、2. エイツーヘルスケア

1. Liberal Arts Educ. Res. Musashino Univ., 2. A2 Healthcare Corp.

【目的】初期キャリア形成期・社会人歴5～10年の薬学出身者の「就業意識調査」を実施し知見を得たので報告する。

【方法】2008年3月から2014年3月の武蔵野大学薬学部卒業生を対象に「就業意識調査」をWEBにて実施。主な調査項目は、①現在の職業、②就職選択時重視する事項、③現在の職業の満足度、④転職経験と転職理由、⑤今後の予定などである。データに応じて、相関係数、 χ^2 検定、U-検定、Kruskal-Wallis-検定、多変量解析にて分析した。

【結果】有効回答数86件、現在の職業は、薬局薬剤師5割、病院薬剤師、企業勤務が各2割であった。「職業の満足度」は、80～100点が3割弱、70～79点が4割弱と高い満足度を示し、職業間に差が見られた。「将来の予定」では、定年まで勤務希望が約15%、5年以上長期勤務希望が約3割を示し、「現在の職業」や「職業の満足度」により差が見られた。「転職経験者」は約3割強、そのうち3年までの転職が約4割であった。転職後約7割が薬局に従事し、その半分は薬局から薬局への転職、残りは企業や病院薬剤師からの転職であった。また、薬局勤務者の約半数は転職者であった。主な転職理由は、「仕事内容の不満」や「結婚出産育児」であった。「現在の職業」、「職業満足度」、「今後の予定」、「教育制度（4／6年制）」、「性別・婚姻状況」でクラスター分析を試みた。

【結論】今回の調査で、3年以内の転職者の割合が高く、薬局薬剤師の約半数が転職経験者と、薬局薬剤師への転職がしやすいことが示された。1大学の少数サンプルの結果でありパイロットスタディと位置づけ、調査の拡大を検討したい。

今後の薬学出身者のキャリア形成の議論を喚起したい。

Work attitudes of pharmacy graduates at early career stage

○Keiichi Nakagomi¹, Yukikazu Hayashi²

1. Liberal Arts Educ. Res. Musashino Univ., 2. A2 Healthcare Corp.